

地域計画

策定年月日	令和7年3月25日
更新年月日	令和8年3月26日 (第1回)
目標年度	令和15年度
市町村名 (市町村コード)	久喜市 11232
地域名 (地域内農業集落名)	栗原地区 栗原、上町

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	35.68 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	35.68 ha
② 田の面積	25.53 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	10.15 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.00 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	15.34 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	4.27 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	4.27 ha
(備考)	

- 注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。
 5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

- * 本地域の主な担い手は、認定農業者を含む5名が位置付けられているものの十分ではない状況にある。
- * 一部、法人経営体による拡大意向がある状況。
- * 燃料代、肥料代の高騰、設備投資にかかる費用増大により農業経営に支障。
- * 自然災害、病害虫等被害による収穫量低下、コスト増加などにより、今後、担い手の経営規模縮小、離農を危惧。
- * 主な作目:水稲
- * 取配水や地形等の悪条件につき、耕作条件改善への取り組みが必要。
- * 耕作放棄地の管理、除草作業の負担、担い手の高齢化、後継者不足などから、更なる遊休農地増加を懸念。
- * 耕作放棄地の解消、新たな担い手の確保、後継者育成が課題。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- * 現在の主要作物の米の栽培を今後も継続。
- * 団地化形成のため基盤整備を行いつつ、生産の効率を高めていく。
- * 積極的な農地中間管理機構への貸し付けを推進。
- * 農作業の効率化を図るため、積極的に主要担い手への集積・集約化を推進。
- * 新規参入の促進と新規参入者への集積・集約化、農業生産基盤整備について検討。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
担い手の経営意向を勘案して、将来の主な担い手となる規模拡大希望耕作者や、大規模耕作者、農業法人へ集積、集約化していく。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	35.44	%	将来の目標とする集積率
			56 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
担い手への集約を進め、圃場の整備、大規模化及び集団面積の拡大を推進する。 また、埼玉県の基本方針に基づき、担い手への集積率56%を目指す。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
今後、農作業の効率化を図るため、担い手への集積・集約化を推進する。 また、参入希望の農業法人への集積、集約化を地域での意向を確認しながら検討していく。
(2)農地中間管理機構の活用方法
地域の担い手の経営意向を勘案して、積極的に農地中間管理機構への貸し付けを行う。
(3)基盤整備事業への取組
地形等による悪条件の耕作地等の耕作条件改善へ向けて、今後、地域の話し合いの場を持ちながら、農業生産基盤の整備について検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
新規就農希望者に対し、関係機関と連携し、情報提供、技術指導、経営力、農地確保等に関する支援を行う。 また地域農業の新たな担い手として、農業法人や民間企業の農業参入に対して地域の実情に即した誘致を行う。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
現在、農業協同組合によるドローンを活用した農薬散布のサービス利用機会があり、今後更に活用の拡大を推進していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④輸出	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/>	⑨その他		

【選択した上記の取組内容】

⑨耕作放棄地の解消を図るための取り組みや、放棄地化を防ぐ対策等の方法を検討していく。

